

# もんじゅ安全委員に1610万円

## 5年間 原発メーカー寄付

日本原子力研究開発機構の高速増殖原型炉「もんじゅ」(福井県敦賀市)の安全性を調べるために設置された専門家委員会の委員7人のうち3人が、原子力関連の企業・団体から寄付を受けていたことが、朝日新聞の調べでわかった。寄付は、もんじゅのストレステスト(耐性評価)の業務を受注した原発メーカーなどからで、5年間で計1610万円になる。

## 3人審議への影響不確定

委員会は、昨年11月に文部科学相の指示で機構が設置した「もんじゅ安全性総合評価検討委員会」(委員長 片岡勲・大阪大教授)。

朝日新聞が委員の所属大学に情報公開請求し、対象となる過去5年分(2006～10年度)が開示され、委員に直接取材した。寄付を受けていたのは宇根崎博信・京都大教授(計180万円)、片岡教授(計450万円)、竹田敏一・福井大付属国際原子力工学研究所(計980万円)で、3

人は取材に対し受領を認め、たうえで、審議への影響を否定している。寄付をしていたのは、もんじゅの原子炉を建設し、ストレステストを1億6千万円で機構から受注した三菱重工▽ストレステスト

関連業務を受注した関西電力グループ会社の原子力エンジニアリング▽関西電力関連の関西原子力懇談会(関原懇)▽核燃料会社のグローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン▽11年度に機構の業務を計15億円分受注した三菱電機――の五つの企業・団体。

寄付は研究助成が名目で奨学寄付とも呼ばれ、研究者を指定して大学を通じて寄せられる。寄付者側に使途を報告する義務はない。委員会は、これまでに合計を2回開き、東京電力福島第一原発事故を受けて機

### ■寄付を受けていた委員の話

( )は寄付をした企業・団体と寄付額  
宇根崎博信・京都大教授

(原子力エンジニアリング100万円、  
関西原子力懇談会80万円)

「研究補助と安全性の評価はまったく別物。それによって甘くなることはありえず、逆に身内だからこそ厳しく言える」

片岡勲・大阪大教授

(関原懇300万円、三菱電機150万円)

「機構が設置したいわば内部の委員会なので問題ないと思う。もし『金をもらった委員長なら信頼できない』と言われるなら対応を考える」  
竹田敏一・福井大付属国際原子力工学研究所長

(三菱重工200万円、原子力エンジニアリング200万円、関原懇400万円、グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン180万円)

「寄付は研究のための旅費に使う。出している事業者は、私から辛口で、妥協のない評価をもらうことを期待していると思う」

機構が進めるシビアアクシデント(過酷事故)対策やストレステストの途中経過について報告を受け、意見を述べた。機構はストレステスト終了後に委員会を開き、最終的な意見を得る予定だ。

機構は委員会の設置目的を「安全対策を適切かつ客観的な評価とするため、第三者の立場から専門家の意見を頂ぎ、確認を受ける」としている。機構による委員は原子炉工学や危険

日本原子力研究開発機構敦賀本部の話 現在事実確認を進めている。安全性評価にかかわるような目的の金銭支援があった場合は、委員の変更を検討する。今後は、委員を委嘱する際に自己申告による確認をしていく方向で検討する。

文部科学省原子力課の話 原子力安全・保安院などの取り組みを参考にしながら、委員に金銭支援の自己申告を求めるように、機構を指導していく。